

10の市民像からみえてくること

1 「暮らしやすさ」と「暮らしにくさ」

第1章でみてきたように、市民の9割は何らかの心配ごとを抱えている。年齢別にみれば心配ごとの中身にちがいはあるが、どの世代も「様に不安なのである。しかし、「暮らしやすさ」の感じ方についてみれば、「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」が68・5%に上り、「どちらかといえば暮らしにくい」「暮らしにくい」は12・8%である。この「暮らしやすさ」「暮らしにくさ」を分けている要素は、何であろうか。

●暮らしやすさの基盤的要素は

「住まい」と「仕事」の安定

「暮らしやすさ」に関する判別分析を行うと、「暮らしやすさの促進項目」に最も寄与しているのは「住まいが快適である」ついで、「自分が努力すれば報われる社会」という項目である。逆に、「暮らしにくさの促進項目」は「自分が努力しても報われない社会」「失業や倒産」「家賃や建て替えなどの問題がなく、安心して住み続けられる「いいえ」という項目である。住まいと仕事や収入の安定は「暮らしやすさ」の基盤的な要素であり、それなくして社会への肯定感を持っていないのだ、と考えられる。また、駅や病院などの施設への利便性などの居住環境の評価が良好かどうか、生活の相談援助など

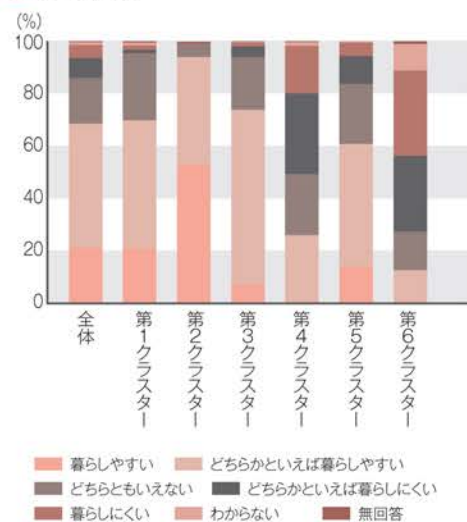
社会的関係が豊富かどうかも「暮らしやすさ」「暮らしにくさ」に影響している。

へとも暮らしやすい人々

●暮らし満足家族型(クラスター2)

「暮らしやすさ」のほとんどの促進項目が重なっているのが「100人のまち」の市民像の中の「暮らし満足家族型」である。「暮らしやすさ」94%と高く、生活の心配ごとはすべて平均を下回り、家族関係も良好で社会的な関係も豊富である。全体の28%にあたる。(この調査の回答率は約半分であり、「暮らしやすい」という人々の回答が多くなっていると推測される。グループインタビューに応じてくれた回答者はほとんどが「暮らし満足家族型」の市民であったことからわかる)。

■暮らしやすさ



各クラスターの特徴

■年齢

	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答
全体	3.9	5.9	7.0	11.6	9.5	8.8	8.3	7.3	10.3	9.1	7.6	10.7	0.1
第1クラスター	3.3	3.8	7.1	7.9	8.4	6.0	6.0	5.7	9.8	10.3	8.7	23.1	0.0
第2クラスター	5.1	5.0	5.6	9.8	7.6	7.6	8.1	7.4	13.1	10.0	9.8	10.7	0.1
第3クラスター	4.3	6.9	9.1	15.4	11.2	11.1	10.2	7.4	8.5	6.9	4.5	4.5	0.0
第4クラスター	2.2	7.6	7.9	12.8	11.4	9.2	9.2	7.6	10.1	9.8	4.3	7.6	0.3
第5クラスター	3.1	7.7	3.6	9.2	6.6	7.7	4.6	7.7	8.2	9.2	12.2	19.9	0.5
第6クラスター	3.4	3.4	4.5	6.7	11.2	10.1	5.6	9.0	10.1	13.5	15.7	6.7	0.0

■ライフステージ

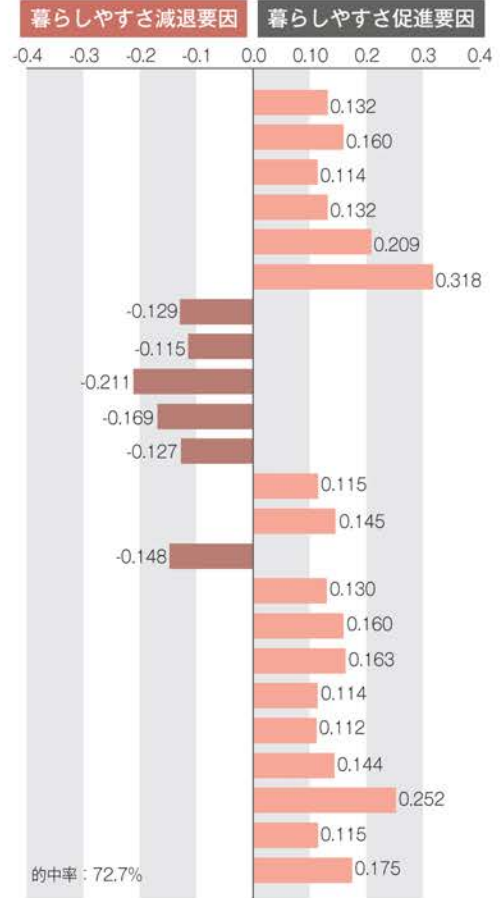
	単身(40歳未満・独身)	単身(40~64歳・独身)	夫婦のみ(40歳未満・子なし)	夫婦のみ(40~64歳・子なし)	高齢子どもなし(65歳以上・子なし)	家族形成期(第1子が小学校入学前)	家族成長前期(第1子が小学生)	家族成長中期(第1が中・高校生)	家族成長後期(第1子が大学生等)	家族成熟前期(第1子が学校教育終了、末子が教育期)	家族成熟中期(子が全員独立した親・65歳未満)	家族成熟後期(子が全員独立した親・65歳以上)	無回答
全体	11.6	4.5	4.5	4.4	1.8	8.9	6.8	7.3	4.7	4.0	15.8	23.3	2.6
第1クラスター	8.7	3.5	3.5	4.1	1.4	7.6	3.8	6.0	3.8	3.3	13.6	36.7	4.1
第2クラスター	11.4	1.7	4.1	2.6	1.1	6.7	6.7	7.3	5.6	4.1	19.4	27.2	2.0
第3クラスター	12.1	3.6	5.2	5.2	1.0	13.0	9.7	8.4	6.1	4.6	16.1	13.9	1.0
第4クラスター	9.5	4.3	6.3	6.3	1.9	11.7	7.6	9.0	3.8	3.8	14.9	18.2	2.7
第5クラスター	18.9	15.3	3.1	4.6	5.6	0.5	1.0	3.1	0.0	2.6	9.2	29.6	6.6
第6クラスター	12.4	16.9	2.2	5.6	5.6	1.1	3.4	3.4	3.4	4.5	11.2	25.8	4.5

暮らしやすさに関する判別分析の結果

暮らしやすい、あるいは暮らしにくいと回答している人を分けるものは何なのか、「暮らしやすさ」に影響している要因を分析

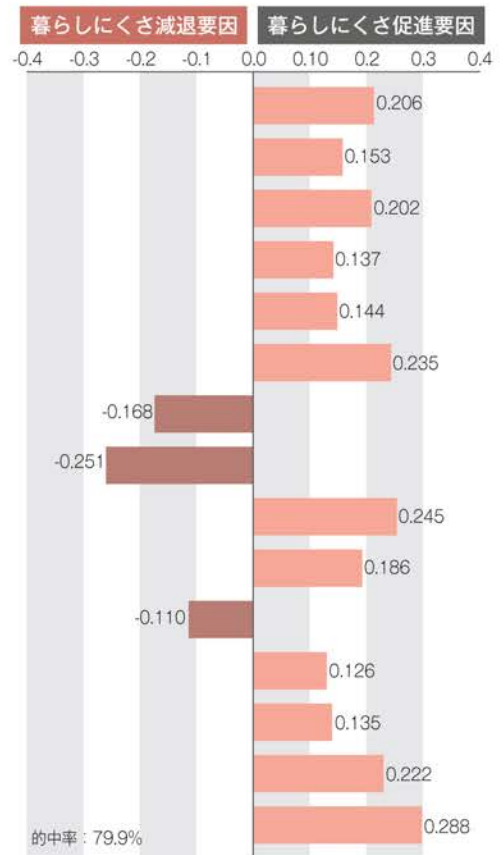
暮らしやすさを促進する要因

地域環境	誰もがゆったり過ごせる公園がある [はい]	0.132
	病院や診療所など医療機関が利用しやすい [はい]	0.160
	保育所や幼稚園などが利用しやすい [はい]	0.114
	住民の転入や転出が多い町だ [いいえ]	0.132
住居	家賃や建て替えなどの問題がなく、安心して住み続けられる [はい]	0.209
	住まいが快適である(広さ、段差やエレベーターなどの設備) [はい]	0.318
悩みや困り事	自分や家族の健康状態や病気のこと	-0.129
	収入(年金を含む)のこと	-0.115
	家計のやりくり	-0.211
	子どもの保育や教育のこと	-0.169
	家族や親戚の介護のこと	-0.127
相談援助相手	世間話や情報交換の相手:同居家族	0.115
	世間話や情報交換の相手:学校時代の友人・知人	0.145
	世間話や情報交換の相手:区役所や市役所の人	-0.148
	心配事や悩み事の相談相手:近所や地域の人	0.130
	部屋の掃除や買い物:その他の人に頼む	0.160
地域	地域活動等:近所の子どもの見守りや預かり	0.163
	地域活動等:高齢者や障害者の施設などでのボランティア	0.114
価値観	住みやすいと思う地域:お互いに干渉せず、煩わしくない地域	0.112
	信頼感:一般的に人は信頼できる	0.144
	現代の社会:自分が努力すれば報われる	0.252
	行政のあり方:高負担、手厚いサービス	0.115
	社会貢献:積極的に社会貢献したい	0.175



暮らしにくさを促進する要因

地域環境	近所の道路は、子どもや高齢者でも歩きやすい [いいえ]	0.206
	交通の便がよく、通勤・通学が楽である [いいえ]	0.153
	病院や診療所など医療機関が利用しやすい [いいえ]	0.202
	住民の転入や転出が多い町だ [はい]	0.137
住居	ごみ出しやペットのふんの始末など、マナーを守る人が多い [いいえ]	0.144
	家賃や建て替えなどの問題がなく、安心して住み続けられる [いいえ]	0.235
関係の家族等	住まいが快適である(広さ、段差やエレベーターなどの設備) [はい]	-0.168
困り事	自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる [はい]	-0.251
	失業や倒産	0.245
相談援助相手	収入(年金を含む)のこと	0.186
	部屋の掃除や買い物:近隣の友人・知人に頼む	-0.110
	部屋の掃除や買い物:その他の人に頼む	0.126
価値観	経済的に困ったときの援助:頼める人がいない	0.135
	自分の居場所:ない、いない	0.222
	現代の社会:自分が努力しても報われない	0.288



「どちらかといえば暮らしやすい人々」

●「子育て・やや安定型」(クラスター3)

「子育て・やや安定型」は子どもを育てている世代が多く、家族や社会的な関係は豊富だが、生活の心配ごとも多い。「自分や家族の健康」「収入」「家計のやりくり」「仕事・職場」「子どもの保育・教育」「住宅」などの項目も平均を上回っている。「暮らしやすい」はほぼ平均的だが、「暮らしやすい」は7%と少なく「どちらかといえば暮らしやすい」が67%と多い。

●「高齢・無関心型」(クラスター1)

75歳以上の高齢者の多いクラスターである。「暮らしやすい」はほぼ平均的である。生活の心配ごとは「自分や家族の健康」が平均を上回るが、それ以外は平均を下回る。相談援助の相手は別居の家族や親せきに頼むのも平均より少なく、サービスや制度を「利用したくない」という割合が高い。特徴的なのは、人とのつき合いは「気のあった人とだけつき合えばよい」という考え方が多く、住みやすいと思う地域は「お互いに干渉せずわずらわしくない地域」が平均を大きく上回っている。社会的な関わりを好まないタイプである。

●「単身・非親族ネットワーク型」(クラスター5)

単身者の多いクラスターで65歳以上が多いが、20代後半、50代後半もやや平均を上回る。「暮らしやすい」はほぼ平均的である。心配ごとは「家族との関わりや親せきとの関係」が平均をかなり上回るが、他の項目は平均的。人とのつき合い方は、「気のあった人とだけつき合えばよ

い」が平均よりかなり多く、住みやすいと思う地域は「お互いに干渉せずわずらわしくない地域」が平均を上回っている。相談相手は、家族が極めて少なく、「趣味やボランティア活動などの友人・知人」「信仰を通じた友人・知人」「同じ悩みを持ったグループの人」などで、家庭内の相談は、「公的窓口」にするが平均を上回る。

「とても暮らしにくい人々」

●「生活基盤不安定型」(クラスター4)

「暮らしやすい」が0.3%と少なく「どちらかといえば暮らしやすい」が25.5%で「どちらかといえば暮らしにくい」が30.7%、「暮らしにくい」は18.2%で、計48.4%と約半分の人が「暮らしにくい」と感じている。年齢は、20代後半から30代、40代、50代で平均より多く、子どものいる世帯に多い。全体の15%を占める。家族や社会的な関わりは平均的ではあるが、「収入」の心配が6割と高く、「失業・倒産」や仕事、住宅、家族の健康など多くの項目で平均を上回る。人づき合いや住みやすいと思う地域については、特に特徴がない。

●「生活困難孤立型」(クラスター6)

「暮らしにくい」の促進項目のほとんどすべてが重なっているのが「生活困難孤立型」と称した市民像であり全体の3%である。心配ごとは、「子どもの保育・教育」を除いてすべての項目で平均を大きく上回っている。特に多い心配ごとは、「収入」が65.2%、「自分や家族の健康」55%、「住宅のこと」39%である。生活の困難課

■ 住みやすいと思う地域

	お互いに干渉せず、わずらわしくない地域	人と人がざっくばらんな関係で、人づきあいの多い地域	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	25.0	39.1	31.5	3.4	1.0
第1クラスター	44.0	15.2	33.7	5.2	1.9
第2クラスター	23.7	45.6	28.2	1.6	0.9
第3クラスター	12.1	50.6	33.9	2.7	0.6
第4クラスター	26.1	34.5	32.3	6.0	1.1
第5クラスター	39.3	32.7	25.0	2.6	0.5
第6クラスター	36.0	16.9	37.1	9.0	1.1

■ 現代の社会について

	自分が努力すれば報われる(評価される)社会だと思う	自分が努力しても報われない(評価されない)社会だと思う	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	25.0	39.1	31.5	3.4	1.0
第1クラスター	44.0	15.2	33.7	5.2	1.9
第2クラスター	23.7	45.6	28.2	1.6	0.9
第3クラスター	12.1	50.6	33.9	2.7	0.6
第4クラスター	26.1	34.5	32.3	6.0	1.1
第5クラスター	39.3	32.7	25.0	2.6	0.5
第6クラスター	36.0	16.9	37.1	9.0	1.1

■ 悩みや困りごと

	自分や家族の健康状態や病気のこと	仕事や職場のこと	失業や倒産	収入(年金を含む)のこと	家計のやりくり	子どもの保育や教育のこと	家族や親戚の介護のこと	家族との関わり、親戚とのつきあい	住宅のこと	近隣からの騒音や悪臭	地域の防犯上のこと	近所や地域の人、友人とのつきあい	その他	悩みや困っていることはない	無回答
全体	42.6	22.6	7.5	34.1	24.4	17.0	19.3	13.1	17.6	7.3	6.1	7.1	3.8	16.0	2.6
第1クラスター	42.9	14.1	5.2	25.8	15.2	11.4	14.7	8.4	11.1	5.4	2.7	3.3	2.7	21.7	4.1
第2クラスター	28.5	12.4	1.7	15.3	9.7	10.4	12.4	6.3	5.6	2.4	3.1	3.9	3.6	34.5	2.0
第3クラスター	47.1	28.6	7.7	38.3	32.1	26.3	23.6	13.3	22.4	8.3	7.1	6.6	3.2	5.6	1.0
第4クラスター	54.6	34.5	17.1	60.9	45.1	24.2	30.4	20.9	31.5	14.9	12.8	16.0	4.3	3.0	2.7
第5クラスター	45.9	23.0	9.2	35.7	16.3	4.6	13.3	23.0	16.8	6.1	4.6	8.7	6.1	11.7	6.6
第6クラスター	55.1	34.8	16.9	65.2	41.6	5.6	23.6	30.3	39.3	16.9	7.9	13.5	7.9	0.0	4.5

題が重複し多いほど、「暮らしにくさ」が増していることがわかる。

2 暮らしやすさの醸成に向けて

●市民像の流動性

家族の高齢化、単身化の進行による家族のセーフティネットの弱体化、低収入や、転職、再就職による生活基盤の不安定化、家族の変化やライフスタイルの多様化に対応しきれない住まい、教育における格差の拡大など、どの市民像の背景にも生活不安の種はつきない。94%が「暮らしやすい」と答えた「暮らし満足家族型」でさえ、10年先の家族の状況を想定すれば漫然とはしてられない。夫婦のどちらかが認知症になれば家族の日常は一変する。子どもの経済的、社会的自立はうまくいくのだろうか。豊富な資産も不安定な経済状況の中で万全とはいえない。「子育て・やや安定型」は、夫のリストラや病気によって「生活基盤不安定型」になるかもしれないのである。経済、社会の変化がいつ身に降りかかるかもしれない。

しかし、一方で、自ら「暮らしやすい地域をつくる」ために勉強し、行動する市民が存在している。横浜市には生活基盤が安定し社会性の高い市民が数多いことが市民像から明らかになった。地域社会の暮らしやすさを切り開いてきたその力を継承し発展させることが、市のコミュニティ政策にとって大きなテーマである。

●予防的セーフティネットとしての地域社会の形成

暮らしやすい地域社会とはどのようなものなのか。市民像は多様な価値観をあらわしている。生活基盤の安定しているひとほど社会的ネットワークを豊富に持ち、地域社会にたいしても開かれた価値観をもっている。しかし、一方で、家族の中のみで問題を解決し他の人に頼みたくない、頼む人がいない、という状況の人も年齢層を問わず存在している。

地域のつき合い方や問題解決の行動などを含んだグループインタビューの参加者は、アンケートでは、「人と人がざくばらんな関係で人づき合いのよい地域がよい」と、答えた「暮らし満足家族型」に属する市民が多かった。しかし、自分の家族の問題、子育て、介護、病気、仕事のことなどは、地域の人との間では話題にすることはほとんどなく、保育所、学校、地域ケアプラザ、病院などの専門機関に相談する、ということであった。地域によって違いはあるが、「地域の人とは、あいさつのみ。少し立ち入りすぎると引かれてしまう」と、気をつかいながら暮らししている現実が語られた。一方で、「たわいのない会話ぐらいがないとさびしい」と感じ、そうしたゆるやかな関わりを求めている様子もうかがわれた。今後、少子・高齢、人口減少を迎える地域社会は、家族が果たしてきたケア、会社組織が果たしてきた雇用というセーフティネットを代替できるのだろうか。市内には、保育所や地域

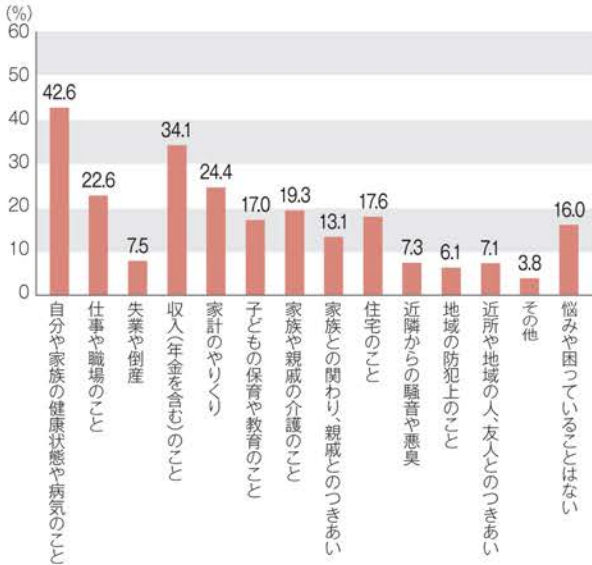
ケアプラザなどの地域の専門的なサービスのインフラが整備された。専門機関のサービスとも連携しつつ、なお、地域社会という日常的な生活の場にきめの細かいセーフティネットの網の目が必要となっているのではなからうか。第3章では暮らしやすい地域社会を築くための目安となる指標を地域の様々な具体的な取組から分析し、今後のコミュニティ政策の方向性を考える。

■ 心配ごとや悩みがあるときの相談相手

	同居している家族	別居している家族	親戚の人	近所や地域の人	仕事で知り合った人	学校時代の友人・知人	趣味やボランティア活動などの友人・知人	子どもの学校や家族の職場などで知り合った人	学校の先生や医師、ヘルパーなどの専門家
全体	76.1	44.7	23.3	10.6	20.2	22.2	9.0	9.1	9.1
第1クラスター	77.2	35.1	22.0	5.4	9.8	11.1	4.9	4.1	2.2
第2クラスター	81.5	49.1	29.4	16.1	20.5	25.0	12.7	11.0	11.8
第3クラスター	84.6	52.4	22.2	12.4	24.9	29.2	10.2	13.5	11.0
第4クラスター	78.0	45.1	23.6	6.5	22.0	19.8	3.5	6.8	9.2
第5クラスター	34.7	26.0	14.3	5.6	21.4	17.9	12.8	1.0	7.7
第6クラスター	38.2	22.5	10.1	1.1	10.1	4.5	0.0	2.2	3.4

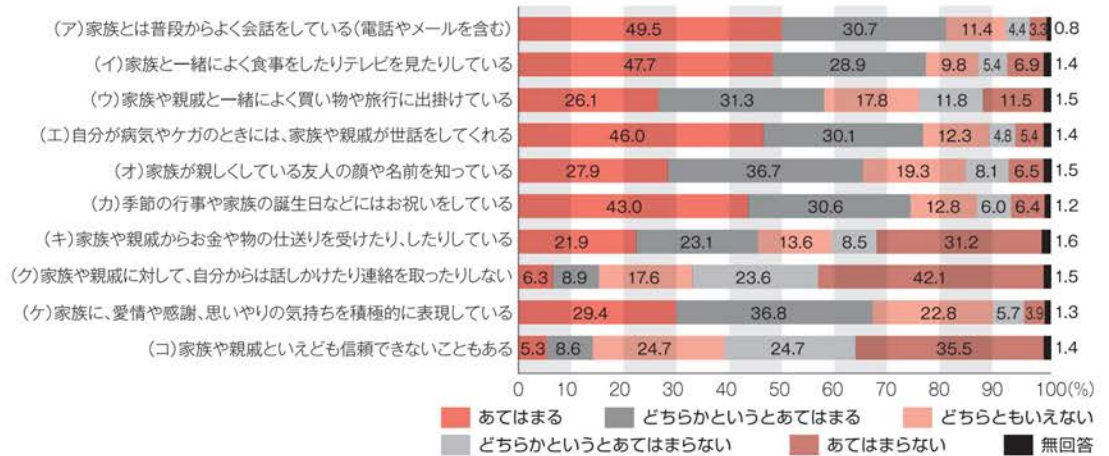
	区役所や市役所の人	買い物などをするお店の人	インターネットを通じて知り合った人	同じ悩みを持ったグループの人	信仰を通じた友人・知人	その他	いない	心配事や悩みはない	無回答
全体	5.3	0.5	1.0	1.9	3.9	1.6	2.8	4.1	0.7
第1クラスター	1.1	0.0	0.8	1.1	1.4	3.0	1.6	7.3	1.4
第2クラスター	5.7	0.7	0.6	1.3	4.1	1.3	0.6	7.0	0.3
第3クラスター	5.4	0.8	1.4	2.3	5.1	1.1	0.6	1.1	0.0
第4クラスター	6.5	0.5	0.8	2.7	3.8	1.6	2.7	0.8	0.3
第5クラスター	6.6	0.0	2.6	3.1	4.6	1.5	8.2	7.1	4.1
第6クラスター	10.1	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	31.5	2.2	2.2

■あなたは、現在、ご自分やご家族のことで、悩んでいることや困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

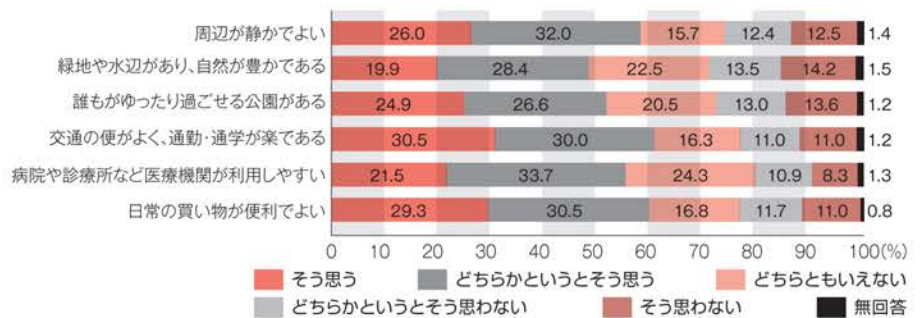


「暮らしやすさに関する調査」 結果の概要

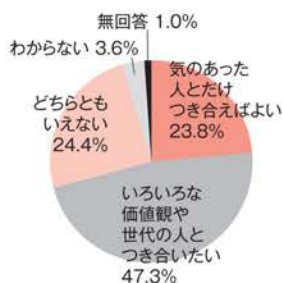
■ご家族(別居の家族を含めて)や親戚の方とのかかりについて、「1 あてはまる」から「5 あてはまらない」の中から1つを選び、〇印をつけてください。(それぞれ〇は1つ)



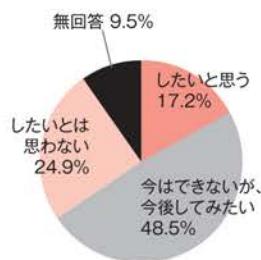
■あなたがお住まいの地域についていかがいます。次の項目それぞれについて、「1 そう思う」から「5 そう思わない」の中から1つを選び、〇印をつけてください。(それぞれ〇は1つ)



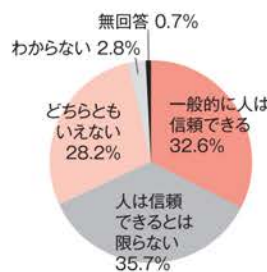
■あなたは、人とのつきあい方について、どのようにお考えですか。



■あなたは、今後、仕事や学業以外に、何か自分にできることで地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思いますか。(〇は1つ)



■あなたは、信頼感について、どのようにお考えですか。



■あなたは、現代の社会について、どのようにお考えですか。

